

令和版

マンガで学ぶ
補聴器の新常識

補聴器を

失敗したくない人に

読んでほしい本

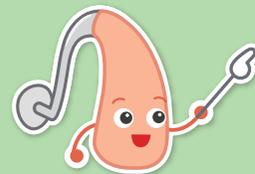


宇都宮方式聴覚リハビリテーションが受けられる施設はこちらをご覧ください。

“聞こえる”プロジェクト <https://www.kikoeruproject.jp/>



The New Standard in Hearing Aids



はじめに

この冊子では、補聴器を上手に使うための「令和の補聴器新常識」を、マンガでわかりやすく紹介しています。

補聴器は聞こえを補助し、快適で安全な生活をサポートしてくれる医療機器です。しかし、実際には補聴器の性能が十分に活かされていないことが多く、不満を感じている方も少なくありません。

この冊子は、補聴器を購入する際に失敗したくない方や、これから補聴器の使用を検討している方にぜひ読んでいただきたい内容です。

監修者



医師 新田 清一
(しんでん せいいち)
済生会宇都宮病院 耳鼻咽喉科
主任診療科長・聴覚センター長



医師 山田 浩之
(やまだ ひろゆき)
けいゆう病院 耳鼻咽喉科
部長



言語聴覚士 鈴木 大介
(すずき だいすけ)
済生会宇都宮病院 耳鼻咽喉科
係長

登場人物



シゲルさん
最近少し耳が遠くなったかな？
と感じている補聴器初心者。
孫の音羽ちゃんと話をするのが
大好き！



音羽 (おとは) ちゃん
シゲルさんの孫で大学生の音羽
(おとは)ちゃん。シゲルさんが
大好きで、シゲルさんのために
色々しようとするが、



ミチコさん
ベテラン補聴器装用者。失敗
を何度か経験しながらも、現在
は補聴器ライフを楽しんでいる。

も く じ

はじめに	01	効果をさらに上げるには!	19
登場人物	02	トレーニングの流れ	21
補聴器を失敗しないために	03	3カ月のスケジュール例	23
難聴の脳をイキイキ脳に!	05	始めて1週間は特につらい	25
トレーニングで大切なこと	07	1カ月後 脳の変化を実感	27
ミチコさんの失敗談	09	トレーニングの成果を確認	29
補聴器の調整と検査	11	聞こえることが楽しくなった	31
補聴器をつけた検査が重要	13	3カ月後 補聴器の購入	33
見た目や値段だけで選んじゃダメ	15	補聴器の健康診断	35
必要十分な補聴器を選ぼう	17	音羽ちゃんチェック!	37
		監修者紹介	38

補聴器を失敗しないために大事な3つの新常識

補聴器を失敗しないために必要な3つの新常識。あなたは知っていますか？

1 難聴の脳をイキイキ脳に変えるトレーニング

ポイント 脳を変えるトレーニングをしないと補聴器の性能を引き出せません!

補聴器は高額な医療機器。その性能をしっかりと引き出して使うためには「脳がイキイキした状態」でないといけません。難聴の脳を変化させるためには適切なトレーニングが必要です。

2 調整・検査を繰り返して効果を上げる

ポイント あなたの聞こえを最大限に活かす補聴器の調整と検査が重要です!

補聴器トレーニングでは「聞こえポテンシャル」を引き出すことも目的としています。最大限の効果を上げるためには補聴器の調整と検査を繰り返し行うことが必要です。

3 必要十分な補聴器(見た目や値段だけで選ばない)

ポイント 補聴器は自分の聞こえに合わせて選択。見た目を選ぶと失敗するかも!

あなたの聞こえにあった補聴器を選ぶことが大切です(できれば出力に余裕のあるもの)。「見た目やサイズ」を優先したり、「高いものを買っておけば大丈夫!」と値段だけで選ぶと失敗することがあります。必ず試してから、必要十分な補聴器を選びましょう。

本冊子では、この3つのポイントの他に「補聴器を失敗しないための知識」を紹介しています。



補聴器を失敗しないために



失敗しないためには

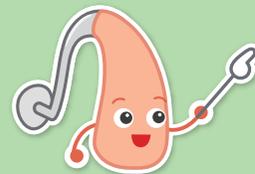
補聴器は「つけるだけ」で効果が出るとは限りません。効果を最大限に引き出すためには、脳を変えるトレーニングや、正しい調整、自分に合った補聴器の選び方が重要です。この3つのポイントを押さえて、失敗しない補聴器生活を始めましょう。

聞こえポテンシャルを引き出すために

聞こえポテンシャルを最大限に引き出すための3つのポイントは

- 1 難聴の脳をイキイキ脳に変えるトレーニング
- 2 調整・検査を繰り返して効果を上げる
- 3 必要十分な補聴器
(補聴器は見た目や値段だけで選ばない)

補聴器をつけても「うるさい」「思ったほど聞こえない」と感じる人は少なくありません。実は、補聴器は正しい使い方や選び方、そして“脳”の準備がとても重要な機器なのです。補聴器との上手なつき合い方を知ることは、令和の新常識。正しい知識が、不安のない補聴器生活へとつながります。



補聴器を失敗しないために

失敗しないための3つのポイント

- 1 難聴の脳をイキイキ脳に変えるトレーニング
- 2 調整・検査を繰り返して効果を上げる
- 3 必要十分な補聴器
(補聴器は見た目や値段だけで選ばない)

まずは
① 脳を変える
トレーニングね

そして
② その効果を
上げる調整・検査

④ 補聴器を
見た目や値段だけで
選ばないこと
(必要十分な補聴器)

どれが欠けても
うまくいかない
からね!

もっと詳しく
聞かせて
くれないかい?

まずは
① 脳を変える
トレーニングね

補聴器を
失敗しないために
私が経験したこと
を教えるわ!

ミチコ先生!
お願いしま〜す!

聞こえポテンシャル
(潜在能力)がどの程度
引き出されているかに
かかっているのよ

成功するか
どうかは

つけるだけで
聞こえるん
じゃないの?

つけるだけじゃ
ちゃんと聞き取れる
ようにならないわ!

聞こえポテンシャルを
最大限に引き出さない
といけないのよ

聞きとりを
よくするためには

そんな話は
誰もして
なかったな…

それには
どうすればいい
んだい?

ポイントは
3つあるわ!

おじいちゃん
最近テレビの音
すごく大きく
なっているよね…

補聴器を
考えてみたら?

補聴器なんて
いらないうよ!
邪魔だし!

町内会でも
あんなの
意味ない! って
言ってたぞ

ミチコさん
補聴器してるけど
よく聞こえてる
感じするよね?

ミチコさんに
聞いてみようよ!

聞きとりに
よくするためには

ミチコさん
こんにちは!

…ミチコさん
補聴器のこと
少し聞いても
いいかい?

私の周りには
みんな
補聴器なんて
意味ないって
言うんだよ

私
も
補聴器と
相性が悪くて
思ったこと
あったわ

そういう人
多いのよね



くわしく!!!

補聴器で脳を変化させよう



難聴の脳

補聴器をつけて初めて音を聞いたときに、「なんだかうるさい」「音が響いてつらい」と感じる人は少なくありません。これは補聴器の性能が悪いからではなく、脳がこれまでと異なる聞こえ方に驚いているためです。

難聴の期間が長いほど、脳は“静かな状態”に慣れてしまっています。そのため、足音や食器の音、ドアの開閉音といった日常の生活音でも、最初は大きく、強く感じられます。

脳を変えるトレーニング

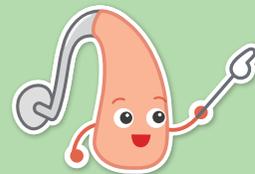
「難聴の脳」を「聞きとりに十分な音量でも聞き続けられる脳(イキイキ脳)」へと変化させるために、補聴器の音量を段階的に上げていきます。はじめは目標の7割程度の音量からスタートします。これは、多少うるさく感じますが効果を実感しやすい音量です。繰り返し調整を行いながら、徐々に音量を上げていきます。

このトレーニングを約3カ月続けることで脳が変化していき、十分な音量でも無理なく補聴器を使い続けられるようになります。

期間は3カ月間



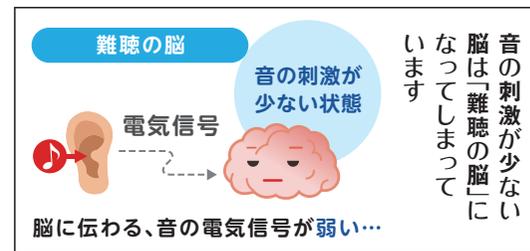
補聴器をつけた直後に「うるさい」「つらい」と感じるのは、音に慣れていない脳の自然な反応です。これは異常ではなく、多くの人に見られるよくある現象です。脳が音に順応するためには、段階的なトレーニングが欠かせません。あせらずに、少しずつ取り組んでいきましょう。継続が脳を変化させるカギです。



難聴の脳をイキイキ脳に!

STORY

02





トレーニングで大切なこと

□ 常時装着する

朝起きてから寝るまで、常に補聴器をつけて生活しましょう。

つけている時間が短いと、脳が変化していきません。

□ 調整と検査を繰り返す

補聴器は、単に聴力だけでなく、生活の環境や状態に合わせて調整することが大切です。

補聴器を使うとあなたの生活も少しずつ変化していきます。そのため、一度きりの調整で終わるのではなく、実際の生活の中で補聴器を使いながら、状態を確認し、それに合わせて繰り返し調整を行っていくことが大切です。

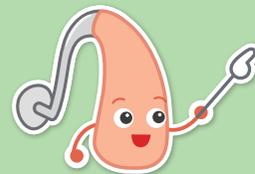
トレーニング中のよくある誤解

「今日は静かに過ごすから補聴器はしない」「人と話すときだけつければいい」と考える人がいますが、これではトレーニングがうまくいきません。

日常の何気ない音(新聞をめくる音、水道の音、冷蔵庫の音など)も、脳にとっては大切な“聞こえの刺激”です。

補聴器をつけて生活の中の音を浴びることで、脳は少しずつ“音のある世界”に適応し、聞こえを取り戻していきます。

補聴器の効果を実感するためには、「継続」が何よりも大切です。特に使い始めの1カ月は、音がつかく感じることがありますが、そこで装着を続けることで、脳が少しずつ音に順応していきます。「聞こえるようになった」と感じるまで、3カ月は頑張りましょう。ご家族や周囲の支援も、大きな力になります。





補聴器の 代表的な失敗例



役に立たない補聴器とは

補聴器をつけても「聞こえない」「効果が感じられない」という場合、それが必ずしも補聴器自体の問題とは限りません。

実際には、聴力に合わない補聴器が使われていたり、調整が不十分であったりすることが原因で、補聴器が本来の性能を発揮できていないケースが多くあります。

このような状態のまま使用を続けると、「補聴器は役に立たない」と感じることでしょう。補聴器を効果的に活用するためには、適切なトレーニングと精度の高い調整は欠かせません。

なぜ役に立たない状態の調整になってしまうのか

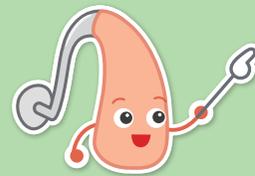
効果を感じられない補聴器の多くは、上記のように音が足りないことが原因です。ではなぜそのような調整が行われるのでしょうか。

- 補聴器をつけたらうるさく感じたので、音量を下げてもらった
- うるさく感じないよう、音量が小さめに調整されていた

初めて補聴器を装用した際は、多くのひとが「音がうるさい」と感じるものです。

そのつらさから音量を下げてしまうと、補聴器の効果が十分に発揮されず、ほとんど効果のない補聴器が生まれてしまいますので、注意が必要です。

補聴器の効果は、耳だけでなく「脳の聞く力=聞こえポテンシャル」によって大きく左右されます。聞こえていない状態が長く続くと、脳は音の情報をうまく処理できなくなっていきます(難聴の脳)。その状態で補聴器を使うと、うるさい!となっていてしまいます。聞こえポテンシャルを引き出すには音を脳にしっかり届ける調整と、脳を変えていくトレーニングが大切です。



ミチコさんの失敗談





くわしく!!!

補聴器には調整が必要です



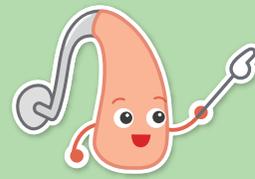
補聴器の調整

他人のメガネを借りても見えないのと同じで補聴器もその人に合わせる必要があります。それを補聴器の「調整」と言います。調整には、高い技術や知識が必要です。補聴器の調整をし直すだけで聞こえがよくなることもあります。必ず専門家のいる施設で調整を受けましょう。

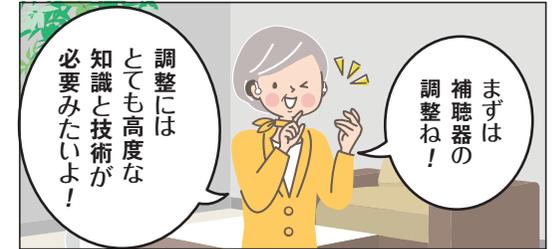


補聴器をつけた検査を行う

メガネを購入する時は、視力検査とは別にメガネをかけた状態での検査を必ず行います(矯正視力)。補聴器も同じです。聴力検査だけでは、その人にあった補聴器になっているかはわかりません。必ず、補聴器をつけた状態で検査をして(いわゆる“矯正聴力”)、補聴器の調整具合を確認しましょう。



補聴器の調整と検査





補聴器をつけた検査について



音の検査とことばの検査

補聴器を調整するためには、「音が聞こえるかどうか」だけでなく、「ことばが聞き取れているか」の検査も欠かせません。どちらの検査も、補聴器をつけた状態で行う必要があります。単に音が聞こえるだけでは、ふつうの声の会話を理解できないこともあります。補聴器の効果をしっかり引き出すためには、この2つの検査を受けることがとても大切です。

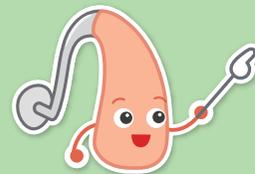
聞こえポテンシャルとは

日常生活で本当に大切なのは、ただ音が聞こえることではなく、「ことばを理解すること」です。ことばの検査では、実際に言葉を聞き取れるかを調べて正解率をパーセントで表します。これを「語音明瞭度」といいます。語音明瞭度を見ると、その人が持っている「聞こえの力」がわかります。それを私たちは「聞こえポテンシャル」と呼んでいます。

補聴器は、この聞こえポテンシャルを引き出すための道具です。補聴器をつけた状態で検査をしないと、どこまで力を引き出しているかわかりません。「聞こえがよくなった気がする」という感覚だけではなく、数字として評価することで、トレーニングの成果を確認できます。



聞こえポテンシャルを最大限に引き出すためには「適切」に調整された補聴器でのトレーニングが必要です。調整が合っていないと効果が出にくいだけでなく、耳に負担がかかることもあります。そのため、補聴器をつけた状態で行う検査は欠かせません。調整の精度を高めるための大切なステップです。



補聴器をつけた検査が重要



音の聞こえの検査

音の検査は高い音から低い音まで流して検査します

ことばの聞きとりの検査

ことばの検査は語音を流して聞きとれるかを検査します

じ ら ほ

補聴器を選ぶポイント



出力に余裕のあるものを

補聴器にはさまざまなデザインや大きさがありますが、自分の聴力よりも出力に余裕のある補聴器を選びます。

将来、難聴が進んでもカバーできる出力のものがよいでしょう。耳かけ型がお勧めです。

耳かけ型補聴器



耳にかけるタイプです。種類や機能が豊富でカラーバリエーションが多いのも特長です。

補聴器と集音器の違い

補聴器は厚生労働省に届け出された医療機器で、効果や安全性の基準を満たしています。

一方、集音器（助聴器）は医療機器ではなく、難聴者向けの使用は推奨されていません。

国民生活センターからも「集音器や助聴器は難聴者が補聴目的で使用するための商品ではない」という注意喚起がたびたび出されています。見た目が似ていてもまったく別物です。

購入の際は「医療機器認証番号」の表記を確認しましょう。

正しく調整された補聴器でなければ、本冊子で紹介したトレーニングもうまくいきません。

見た目や値段だけで選んじゃダメ





くわしく!!!

補聴器は 基本性能が重要



その機能、必要ですか？

「オプションが多い=ベスト」 ではありません！

補聴器には、聞こえの改善に必要な「基本性能」に加えて、さまざまなオプションがついた器種があります。

雑音を抑えたり、スマホと接続できたりと便利に感じる方もいますが、使わないオプションが原因で価格が高くなってしまいう場合もあります。

本当に大切なのは、補聴器の出力や調整の幅といった「基本性能」が、自分の聴力にしっかり合っているかどうかです。

必要なオプション機能がある場合は、実際に試してみることが大切です。日常生活で試聴したうえで、納得して選びましょう。

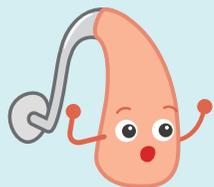
そのためにも、購入前に補聴器を十分に試聴できる環境が整った医療機関または補聴器販売店を選択することが、満足のいく補聴器選びにつながります。

オプション機能

- 指向性
- ワイヤレス (Bluetoothなど)
- 充電式
- AI機能

基本性能

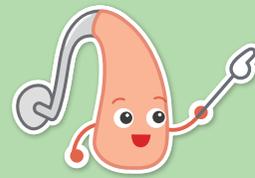
- 出力容量(パワー)
- 補聴器調整機能
- ハウリング抑制
- 雑音抑制



補聴器には、基本性能のほかに、雑音を減らしたり、生活を便利にする機能がついているものもあります。

ですが、どんなに高機能でも、聴力に合っていなければ十分な効果は得られません。検査や調整なしで使っていると、かえって耳に負担がかかることもあります。

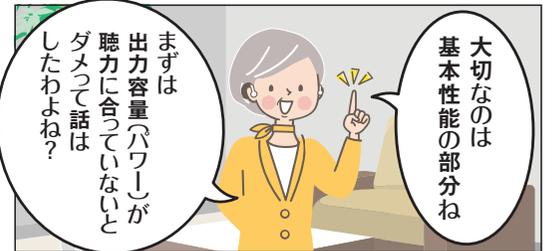
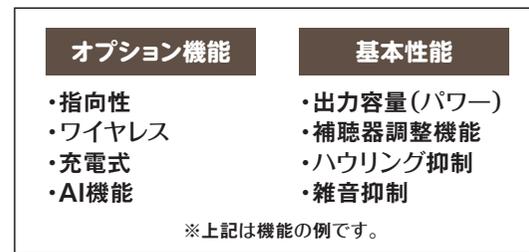
補聴器は医療機器です。必ず専門の知識と技術がある場所で選ぶことが大切です。



必要十分な補聴器を選ぼう

STORY

08



くわしく!!!
自分専用耳栓
イヤモードとは?

イヤモードの利点

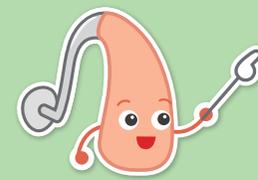
既製品の耳栓に対し、イヤモードは一人ひとりの耳の形状に合わせて作製します。既製品の耳栓と比べ、より耳にフィットするため、はずれにくく、音漏れによるピーピー音(ハウリング)を防ぐという特長があります。



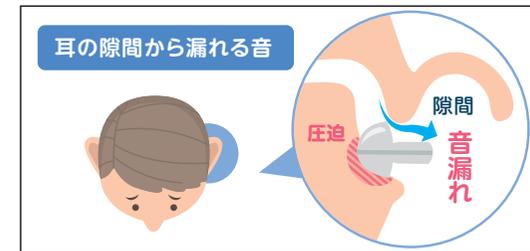
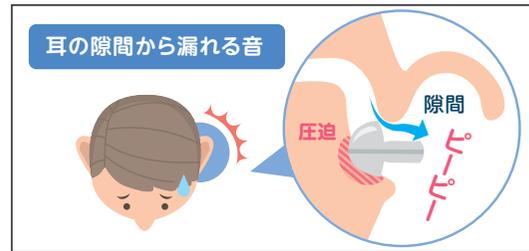
また、イヤモードは音を効率よく安定して伝えることができます。聞こえポテンシャルを最大限に引き出すためにも、トレーニングはイヤモードをつけて行うほうがよいでしょう。



聞こえのイメージをイラスト化したものです。実際の聞こえは人によって異なります。



トレーニングの効果をさらに上げるには!





補聴器 購入までの流れ



トレーニングを行う場合、補聴器を購入するまでの流れは以下のようになります。

1 音の聞こえと聞きとりの検査

2 イヤモールドの作成

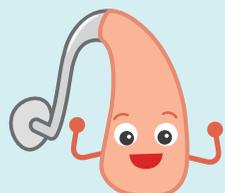
3 補聴器のトレーニング開始
(補聴器の貸し出し)

4 繰り返し調整と検査を行う

5 補聴器購入前の検査

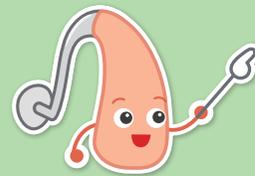
6 補聴器の購入

購入後も定期的な検査と調整は
忘れずに行いましょう

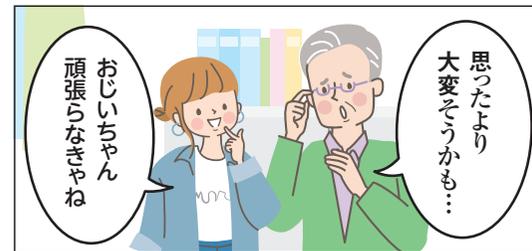
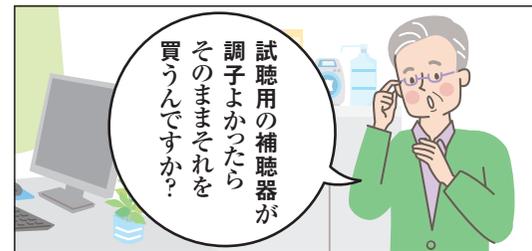


聞こえが不自由な方が一人で3カ月のトレーニングにのぞむと、途中でつらくなり、続けることをあきらめてしまう場合があります。そんな時こそ、ご家族や周囲の方の協力とはげましが大きな力になります。

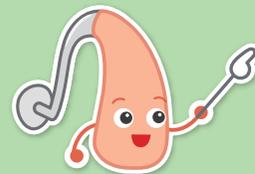
しっかりトレーニングを続ければ何歳でも脳は確実に変化していきます!

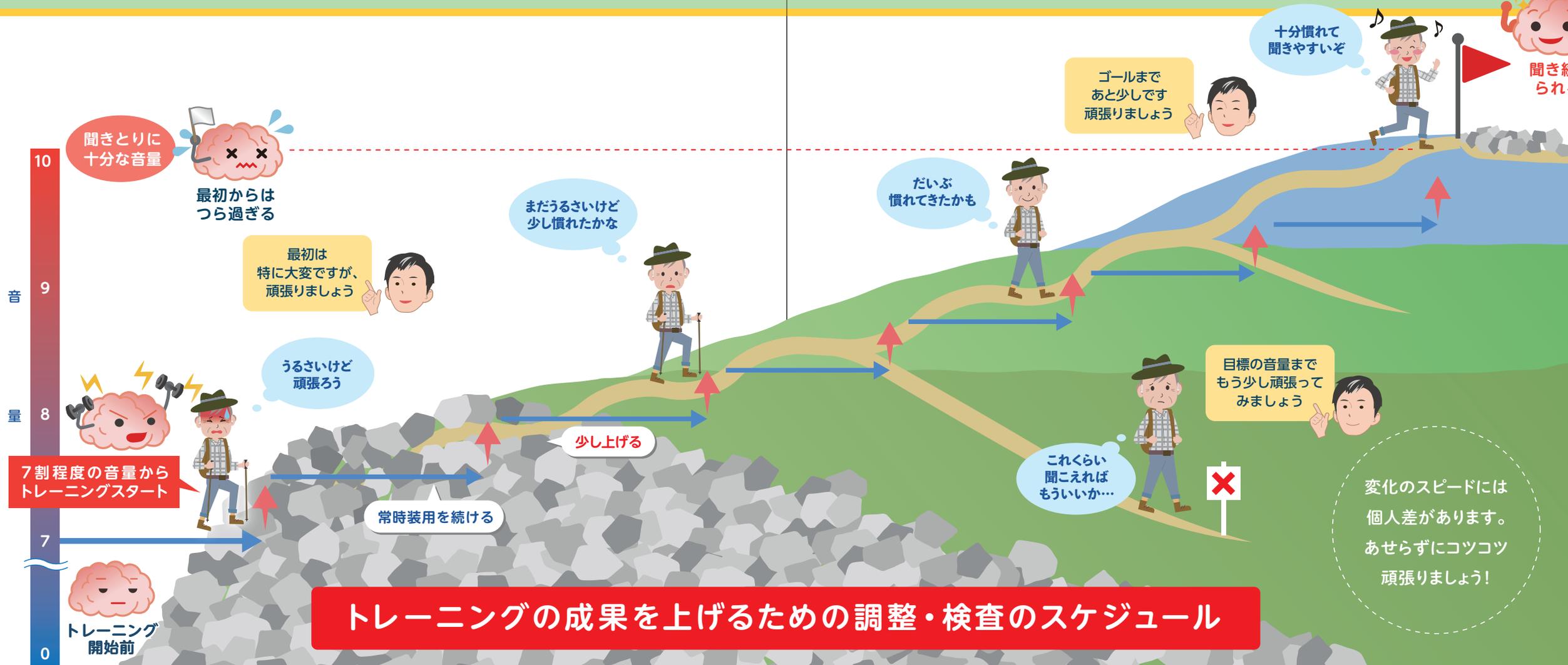
トレーニングの流れ



「難聴の脳」に最初から聞きとりに十分な音量を入れるとつらいので、目標の7割程度の音量から始めて、徐々に上げていきます。



3カ月のスケジュール例



期間	開始日	1週目	2週目	3週目	1か月	2週目	2か月	2週目	3か月	実施頻度
補聴器の調整	●	●	●	●	●	●	●	●	●	毎週~2週
特性測定 ※P36参照	●	●	●	●	●	●	●	●	●	毎週~2週
補聴器をつけた音の検査	●				●		●		●	毎月
補聴器をつけたことばの検査							●		●	2カ月目 3カ月目



もっともつらいのは **始めて1週間**



「難聴の脳」は、トレーニング開始後の「音が豊富にある環境」をうるさく不快に感じてしまいます。このとき補聴器をつけたりはずしたりしてしまうと、脳はどちらの環境に合わせればよいか分からなくなり「難聴の脳」から変化することができません。脳がまだ変化していない始めて1カ月ほどは、つらいのが当然。あせらずに続けていきましょう。

トレーニング開始前…



音の少ない静かな環境

トレーニング開始後!



音の豊富なうるさい環境

特にうるさいと感じやすい代表的な音

- 高い音 (食器の音、流水の音、子供の声、紙の音、レジ袋の音など)
- 大きな音 (車、店の中など)
- 突発的な音 (ものが落ちる音、ドアの音)

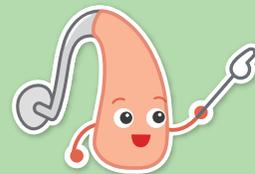
自分で調整できる音は慣れやすいのですが、そうでないものはうるさく感じやすい傾向があります。



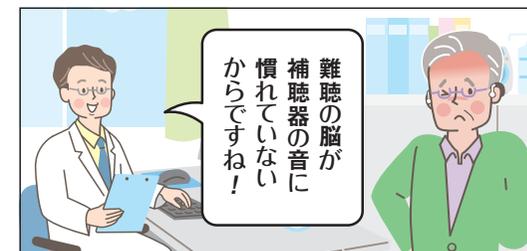
補聴器を使用し続けることで不快感は減っていきますが、耳に痛みがでる、つけられないほどつらい場合は、つけるのを中断して相談に行きましょう。

最初はうるさく感じます。あせらずに頑張りましょう!

補聴器を使い始めたばかりの頃は、誰でも「うるさい」「つらい」と感じやすいものです。特に始めて1週間は脳が変化していないため、不快に感じるのは自然な反応です。あせらず、続けていきましょう。



始めて1週間は特につらい





トレーニングで脳が変化します



補聴器を使い続けることで、難聴の脳がイキイキ脳に変化します。
最初はうるさく感じたり、聞き分けが難しいと感じても、それは「音が脳に届き始めたサイン」です。
下の図は、補聴器を通じて「聞こえポテンシャルが引き出される様子」を表しています。



脳が変化してきましたが、まだ大きい音が気になります。



トレーニング前は、ほとんどの音が脳に届いていません。

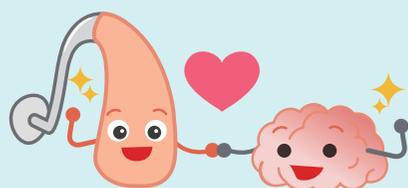


聞こえポテンシャルが最大限に引き出された状態です。

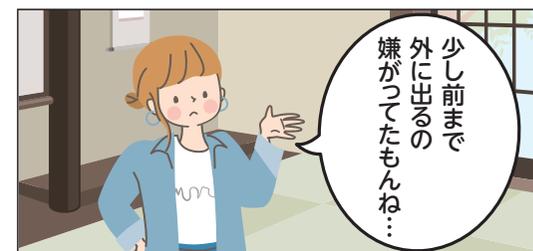


補聴器から多くの音が届き「うるさい」と感じる時期です。

始めて1週間は、「とてもうるさい」と感じるのが普通です。
しかし補聴器を毎日つけることで、脳が少しずつ変わり、ことばの聞きとりがしやすくなっていきます。
こうして「難聴の脳」から「イキイキ脳」へと変化していくのです。

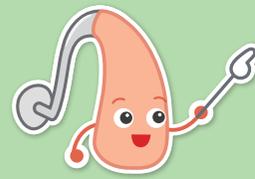


1カ月後 脳の変化を実感





補聴器をつけた状態で、検査をしよう



トレーニングの成果を確認

聞こえポテンシャルが引き出されているか必ず確認しましょう

適切に調整された補聴器でトレーニングしなければ脳は変化しません!

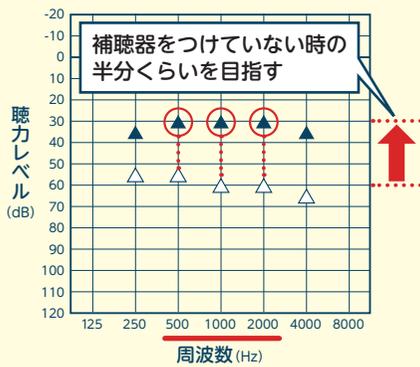
音の聞こえの確認

音の聞こえの確認では、まず補聴器をつけない状態で、どのくらいの大さきの音から聞こえるかを調べます。次に**補聴器をつけて検査をします。その数値の半分くらいが目安です。**例えば、補聴器をつけないと60dBぐらいの難聴の場合、補聴器をつけることで30dB程度ということになります。

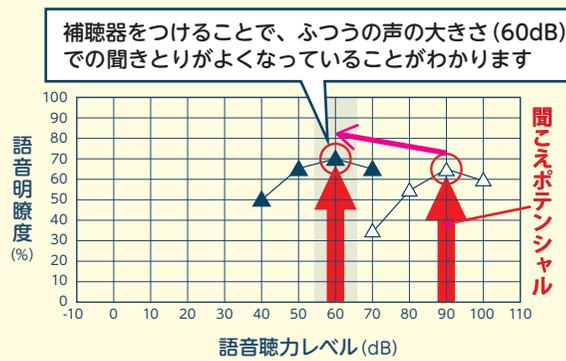
ことばの聞きとりの確認

まず補聴器をつけない状態で検査して聞こえポテンシャルを調べます。下の図では、90dBの語音明瞭度が65%で最も高く、これが聞こえポテンシャルです(90dBとはかなり大きな声です)。次に、補聴器をつけて検査します。ふつうの声の大きさ(約60dB)の聞きとりが、聞こえポテンシャルと同じか少し高くなっていれば、補聴器で**聞こえポテンシャルを引き出せています。**

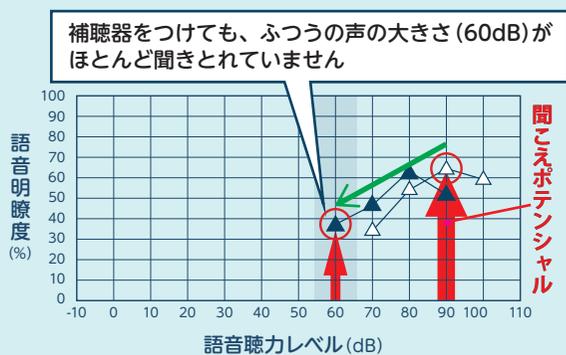
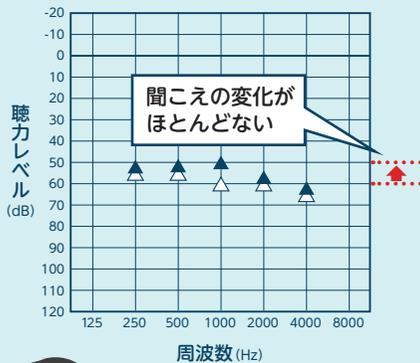
▲…補聴器あり △…補聴器なし



▲…補聴器あり △…補聴器なし



聞こえポテンシャルが引き出されている例



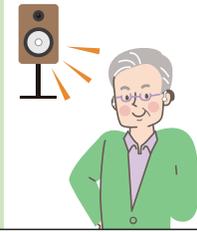
聞こえポテンシャルが引き出されていない例



調整を確認するために、検査は定期的に行いましょう

音の聞こえの確認

補聴器の調整があなたに合っているか確認するため、補聴器をつけて音の聞こえを測定し、適切に調整します。



最近テレビの音が前よりずっと小さくても聞こえるようになりました!



ことばの聞きとりの確認

ことばの聞きとりがどのくらいよくなったかをチェックし、聞こえの力を十分に引き出せたか測定します。



今日はトレーニングの成果を確認しましょう!



ずいぶん効果が出ましたね!

今回の検査結果をふまえて補聴器を調整しましょう

いいですね! 特にことばの聞きとりがよくなっていますよ!

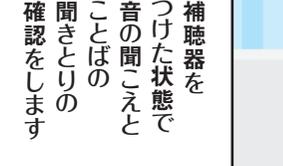
何をされるんですか?



頑張ってきた成果が確認できるのは嬉しいなあ

聞こえポテンシャルを最大限に引き出すまでもう少し頑張らしましょう!

補聴器をつけた状態で音の聞こえとことばの聞きとりの確認をします



聞こえポテンシャルを最大限に引き出すまでもう少し頑張らしましょう!

補聴器をつけた状態でやるんですね!



はい! まだ少しつらい時もあるけど頑張ります!

聞こえポテンシャルをどこまで引き出せているか確認することが大切です!

聞こえポテンシャルをどこまで引き出せているか確認することが大切です!

聞こえポテンシャルをどこまで引き出せているか確認することが大切です!

聞こえポテンシャルをどこまで引き出せているか確認することが大切です!

くわしく!!!
聞こえる喜びを
実感しましょう



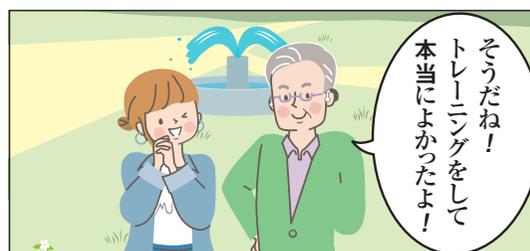
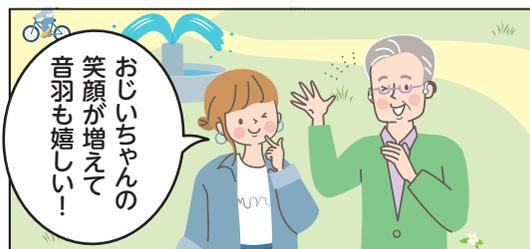
補聴器をつけたからといって、何でも聞こえるようになるわけではありません。しかし、使い続けることで、聞こえる世界は着実に広がっていきます。

たとえばこんな場面で…

- 孫と会話ができるようになった
- 一緒にテレビを観ながら笑い合えた
- 鳥のさえずりや風の音を聞きながら散歩
- 家族の団らんに自然と加わられた
- 会議で一番端の人の声が聞こえた!
- シルバー大学で先生の話がわかって嬉しい
- レストランでは隣のテーブルの会話まで聞こえる
- バスの後ろの席の話し声が聞きとれた
- ついに…ヒソヒソ話まで聞こえるように!?

補聴器を使い続けることで、少しずつ脳が変化し、聞きとれる範囲が広がっていきます。最初は小さな変化を感じるかもしれませんが続けることで「聞こえる実感」がどんどん増えていきます。こうした積み重ねが、ご本人の自信や生活の質の向上につながります。

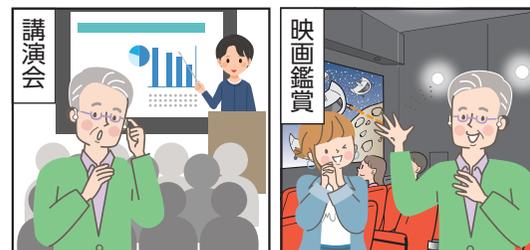
補聴器は、あなたの毎日を支える心強いパートナーです



補聴器をつけても、すべての音ははっきり聞こえるわけではありません。たとえば、ざわざわしたレストランや人混みの中、小さな声や早口の会話、ぼそぼそと話をされる場面などは、聞きとりにくさが残ることがあります。それでも「以前より聞こえる音が増えた」と感じる機会は多いはず。聞こえを活かして、毎日を楽しみましょう。



聞こえることが楽しくなった





補聴器購入前の検査



聞こえポテンシャルを最大限に引き出すために

補聴器を購入する際には、補聴器をつけた状態での検査を行いましょう。
 検査をせずに調整した補聴器ではトレーニングの効果は出ません。
 購入前に行う主な検査は、「音の聞こえの確認」と「ことばの聞きとりの確認」です。
 この2つの検査は、必ず行うようにしましょう。



音の聞こえの確認

補聴器の調整があなたに合っているか確認するため、補聴器をつけて音の聞こえを測定し、適切に調整します。



ことばの聞きとりの確認

ことばの聞きとりがどのくらいよくなったかをチェックし、聞こえの力を十分に引き出せたか測定します。

補聴器をつけた状態で確認します

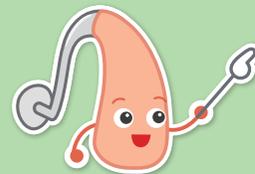


POINT

治療に必要な補聴器の購入は医療費控除が受けられます

医師による診療や治療などのために直接必要な補聴器の購入費用で、一般的に支出される水準を著しく超えない部分の金額は、医療費控除の対象となっています。

補聴器を購入する際に、まず日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会が認定する「補聴器相談医」を受診し、「補聴器適合に関する診療情報提供書」を受け取ります。これは補聴器の処方箋のようなもので、耳の状態や聴力、補聴器選択の注意事項などが含まれています。



3カ月後 補聴器の購入

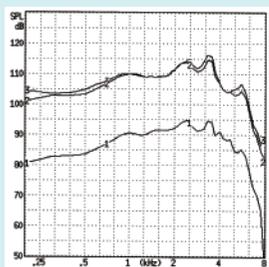




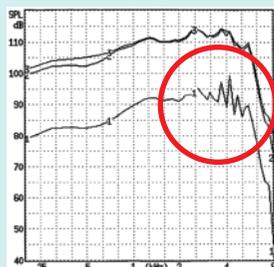
特性図とは、ある一定の大きさの音（下記の場合90dBと60dBの音）を補聴器に入れた時に、補聴器から出ている音をグラフにしたものです。

1 補聴器の健康診断 * 不具合があると特性図が変化します

通常時の特性図



補聴器が故障した時



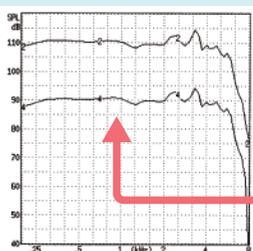
補聴器に**不具合があると**特性図が**ギザギザに変化**します。
定期的に特性図を確認してグラフに変化がないかチェックしてもらいましょう。

最低でも**半年に一度は**特性図の**チェック**をしてもらいましょう。

2 補聴器の音質も確認できます

特性が「ギザギザのもの」より「なめらかなもの」のほうが、聞こえてくる音の質がよいといえます。価格と音質が比例しない場合がありますので注意が必要です。音質は補聴器の調整に大きく影響します。補聴器選びはとても重要です。

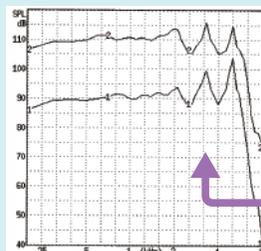
音質がよい器種



- 補聴器の聞こえが、より自然でなめらか
- 補聴器のより細かな部分まで調整できる

音量の変化が**少ない**
変化が**なめらか**

音質が悪い器種

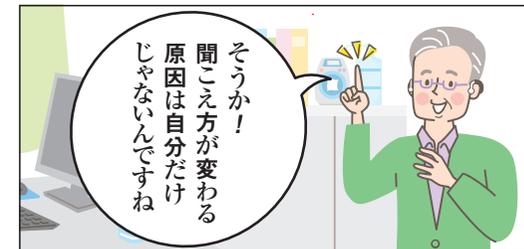
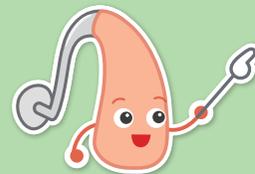


- 音がこもる、キンキン響く、ノイズのように聞こえる
- どれだけ調整してもこれ以上よくなりません

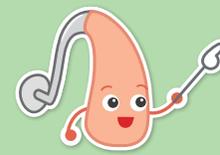
音量の変化が**大きい**
変化が**ギザギザ**

補聴器の調整確認にも特性図のチェックは欠かせません

補聴器は着用者の聞こえに合わせて、調整して使用します。また、補聴器のトレーニング時も細かな調整を繰り返し行います。これらの調整がうまく行っているかの確認にも特性図を使用します。補聴器を装用する上で、特性図の確認は欠かせないものなのです。



監修者紹介



音羽ちゃんチェック!



医師 **新田 清一** (しんでん せいいち)

● 済生会宇都宮病院 耳鼻咽喉科 主任診療科長・聴覚センター長

宇都宮方式聴覚リハビリテーションの生みの親でもあり、聞こえるプロジェクトの中心的役割を果たす。補聴器の満足度が低い本邦の現状や「耳鳴りは治らない」という定説に疑問を感じ、自らの経験と知識を元に治療方法を研究。今までの「耳を治す」という考えから発想を転換し、「難聴の脳」「耳鳴りは脳で発生している」という脳に注目した新しい観点から、補聴器を使った画期的な治療方法を作り出す。



医師 **山田 浩之** (やまだ ひろゆき)

● けいゆう病院 耳鼻咽喉科 部長

2016年よりけいゆう病院耳鼻咽喉科部長に就任し、補聴器外来を開設。数年で神奈川県でNo.1の患者数を誇る人気外来に成長させた。補聴器診療、耳鳴り診療に関する多くの論文も執筆し、宇都宮方式聴覚リハビリテーションの効果を改めて証明してみせた。「難聴をあきらめないで!」「耳鳴りを克服し自分らしい生活を取り戻す!」をモットーに聴覚医療の最前線で活躍している。



言語聴覚士 **鈴木 大介** (すずき だいすけ)

● 済生会宇都宮病院 耳鼻咽喉科 係長

言語聴覚士として質の高い検査を行うだけでなく、補聴器調整にも精通した数少ない専門家。近年の補聴器のデジタル化に伴い、メーカーごとに異なる調整ソフトにも的確に対応し、「患者さんに寄り添う」という信念のもと、国内で流通しているあらゆる補聴器に対応することができる。宇都宮方式聴覚リハビリテーションにおいて、医師の右腕として重要な役割を果たしている。

聞こえるプロジェクト編集部

企画：越智 泰子

編集：デジタルスタジオ 笹沼 泰昭

制作：大門 寿江

イヤモールドって
作った?



これがあつたほうがトレーニングの
効果が出やすいんだって!

詳しくはP19へ

補聴器を
つけて
検査した?

補聴器を耳につけた状態で
検査するのがとっても大切だって

詳しくはP13へ

補聴器つけた時
60dBで
ちゃんと聞きとれた?



普通のおしゃべりの大きさと
ちゃんと聞こえるかがポイントだよ。

詳しくはP29へ

あなたの
聞こえポテンシャルは
何%?

自分の力を知って、それを
補聴器で引き出すんだって。

詳しくはP14、P30へ

音の特性図は
なめらかだった?



ギザギザしてたら要注意、
きれいなカーブが理想なんだよ。

詳しくはP35へ

補聴器、値段だけで
決めてないよね?

高い=よいとは限らないよ。
合うかどうか大事なんだって。

詳しくはP15へ